TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099　FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

2020/10/29

日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る

History of Early Japanese Photography: Kantō District Images of Japan, 1853-1912

2020 年 12 月 1 日（火）—2021 年 1 月 24 日（日）

※本展覧会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を休止しておりましたが、会期を変更して開催いたします

左）下岡蓮杖《(相撲)》慶応4 ―明治4 (1868-71)年頃　鶏卵紙　、右）制作者不詳《(東京向島)》明治中期 (1882-97)頃　鶏卵紙に手彩色
ともに東京都写真美術館

展覧会概要

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館では、Tokyo Tokyo FESTIVAL の一環として「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」を実施いたします。

毎年、東京都写真美術館では、写真の起源にフォーカスして、美術的のみならず、歴史的にも意義のある展覧会を行っています。

今回の「日本初期写真史 関東編」では、高橋則英氏（日本大学藝術学部写真学科教授）の監修のもと、三部構成で幕末明治期における関東地方の写真文化を紐解きます。一章では歴史を概観し、欧州における写真発祥から日本への輸入や普及するまでの歴史と写真技術を俯瞰します。二章では制作者に焦点をあて、関東地方を訪れたり、この地を基盤として活動した写真家や写真技術者たちの作品を展覧するとともに、一都六県それぞれで開業した初期の写真家たちも紹介します。最終章ではペリー来航時の肖像写真から建設中の東京駅まで、バラエティに富んだ幕末明治の写真群を一堂に会し、その蓄層する写真文化を鳥瞰する貴重な機会です。

文化でつながる。未来とつながる。
Tokyo Tokyo FESTIVAL

本展のみどころ

「初期写真」とはなにか、日本写真史の源泉をひもとく展覧会

“写真術は目に見える世界の像を支持体の上に画像として固定する技術である”

近年のデジタル技術の発達によって、「写真」は劇的に変化しました。写真が「モノ」としての質量をもっていたことや、一枚一枚に技術者の手による工程が含まれていたことを想像することが難しくなりつつあります。本展は、日本写真の起源に深く関わる関東の初期写真作品によって、その蓄層する文化を鳥瞰できる貴重な展覧会です。※高橋則英「幕末明治の写真術について」本展図録より参照

関東を代表する写真家たちが活写した、幕末明治以降の関東史

本展は約 190 点の豊富な初期写真および写真器材を通して、写真家の出身地（開業地）や制作地を手がかりに、関東地方（東京、神奈川、埼玉、千葉、栃木、茨城、群馬）に根付いた写真文化の広がりを展覧します。

一枚の写真が雄弁に語りだす物語

展示される初期写真は、度重なる災害を生き抜き、100 年の時を超えて私たちの眼前に存在しています。初期写真の鑑賞の醍醐味は、その一枚の写真から、さまざまな物語を読み解くことです。名を残した写真師だけでなく、さまざまな人たちが写真文化と交わり変わりゆく時代の姿を写真に残しました。

本展には、川崎市市民ミュージアムから、日本人を撮影した現存する最古のポートレイト 2 点を出品します。世紀を超えて、人々の手を伝え守り継がれた、初期写真が雄弁に語りだす物語にご注目ください。

「本物」ならではの初期写真群の魅力を体感する展示空間

本展は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度の会期（2020 年 3 月 3 日―5 月 24 日）を変更し、会期を新たに開催いたします。コロナ禍における展覧会休止期間中には、オンラインコンテンツとして解説動画をご紹介いたしました。

この度、満を持して開催する本展では、初期写真の質感や存在感など、オンラインでは伝えきれない「本物」ならではの作品の魅力を発見する機会となることでしょう。初期写真史のひろがりを展示空間でご堪能ください。

ペリー来航時にエリファレット・ブラウン・ジュニアが撮影した肖像写真を出品いたします。

■ 《黒川嘉兵衛像》嘉永 7(1854)年【国指定重要文化財】

個人蔵・日本大学藝術学部管理

展示期間：2020 年 12 月 1 日（火）－2020 年 12 月 27 日（日）

■ 《田中光義像》嘉永 7(1854)年

個人蔵・東京都写真美術館管理

展示期間：2021 年 1 月 2 日（土）－2021 年 1 月 24 日（日）

《黒川嘉兵衛像》

《田中光義像》

各章解説

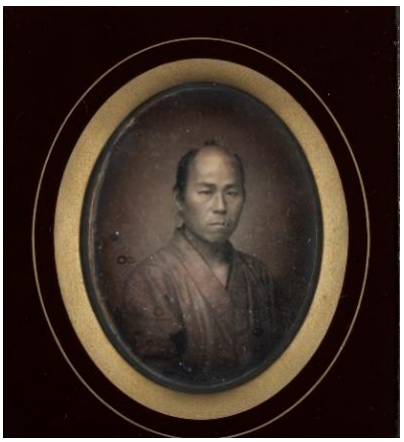
第一章　初期写真抄史

1-1

写真発明の起点は、18 世紀末に遡ります。フランスで発明されたダゲレオタイプは肖像や風景の記録に用いられ、欧米の人々を魅了しました。イングランドで発明されたカロタイプは、一度の撮影で得たネガを使って何枚も同じ写真を得ることができる画期的な技術の発明でした。1870 年代末からはゼラチン乾板の普及によって瞬間撮影も可能になります。

日本では、天保 14（1843）年に長崎で写真器材一式の輸入が試みられ、5 年後の再挑戦で成功。薩摩藩によって写真技術の研究が進められ、川本幸民の『遠西奇器述』に「直写影鏡ダゲウロテーピー」として紹介されています。欧米各国と条約を締結した日本は次々と使節団を派遣し、彼らは現地で撮影した肖像写真を江戸へ持ち帰り、写真の普及に貢献しました。

開港した横浜には日本初の写真館が登場し、ここで写真術を取得した鵜飼玉川が日本人初の写真家として江戸で開業します。文久 2（1862）年には横浜で下岡蓮杖が、長崎で上野彦馬がそれぞれ開業しました。彼らはコロディオン湿板方式を用い、アンブロタイプや鶏卵紙のプリントを作りました。彼らを師とする第二世代が慶応～明治初年に開業し、更に弟子を輩出するかたちで写真文化が日本に定着していきます。



1-2

1-3

1-4

1-1)《アメリカン・ダゲレオタイプカメラ（ルイス・タイプ）》1850 年代初頭　ガラス、鉄、真鍮、木　東京都写真美術館
1-2）ハーベイ・ロバート・マークス《慎兵衛（清太郎）像》1851-52 年頃　ダゲレオタイプ　川崎市市民ミュージアム
1-3）アンドレ=アドルフ=ウジェーヌ・ディスデリ《(8 分割した画面でとらえた少年像)》元治元（1864）年頃　鶏卵紙　東京都写真美術館
1-4）ナダール《第二回遣欧使節 副使 河津祐邦》元治元（1864）年 鶏卵紙 東京都写真美術館

※題不詳のものは便宜上の名称を与え、（　）で示しています。

第二章　関東の写真家

東京と関東一円を起点として日本の写真文化は普及していきます。

文久３（1863）年にはフェリーチェ・ベアトが訪日し、外国人居留地があった横浜(現・神奈川県)で、日本の風俗を紹介する手彩色の写真を加えたアルバムを制作しました。ベアトの元で研鑽したのが、日下部金兵衛です。彼らの作例をはじめ、手彩色によるカラー写真は明治期の重要な技術でした。

また、明治初期には、化学者レオン・ボエルによる横須賀製鉄所の作例が生まれたり、東京では浅草や銀座などの繁華街に写真館がオープンしたりと、さまざまに写真が制作されていきました。埼玉の熊谷、茨城の水戸、栃木の日光市、千葉の千葉市に、それぞれ明治初年に写真館が誕生し、群馬でも明治10（1877）年に富岡で写真館が開業しました。

2－1

2－2

2－3

2-1）下岡蓮杖《木村政信像》文久 2(1862)年　アンブロタイプ　東京都写真美術館
2-2）日下部金兵衛《(花売り)》明治中期（1882-97）頃　鶏卵紙に手彩色　日本大学藝術学部
2-3）江崎礼二《江崎写真館》明治中期（1882-97）頃　鶏卵紙に手彩色　東京都写真美術館

第三章　初期写真に見る関東

江戸が東京になっても、民衆の暮らしは大きく変わることはなく、日本家屋に住み、和服で生活をしていました。欧米の人々は日本のめずらしい風習・風俗やエキゾチックな風景に強い興味を抱いていました。それに応えるべく訪日外国人や日本人写真家たちが、数多くの写真を撮影しました。

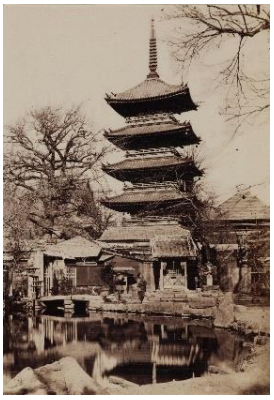
横浜のミヒャエル・モーザーは、居留地内のニュース雑誌『ザ・ファー・イースト』と契約し、日本中を取材しました。この章では、同じ被写体を複数の写真家が撮影した写真も展示します。写真が雄弁に語りだす物語を読み解いていくことは、初期写真を鑑賞する醍醐味といえるでしょう。

関東各地で誕生した写真家たちは、地域や公的機関の要請に基づいて写真を制作するようになりました。彼らの仕事は、すべて関東地方で制作された写真であり、関東地方の人の手に伝えられました。そして度重なる戦乱や災害を生き抜き、100 年の時を超えて私たちの眼前に存在しているのです。

3-1　東京駅（丸の内）

3-2　綱坂（三田）

3-3 ニコライ堂（神田・御茶ノ水）



3-4 浅草

3-6　上野

3-1）宮内幸太郎 《中央停車場建築》明治 44（1911）年 ゼラチン・シルバー・プリント 横須賀市自然・人文博物館
3-2）フェリーチェ・ベアト《江戸三田の綱坂》　文久 3（1863）年　鶏卵紙　東京都写真美術館
3-3）田中武あるいは江崎礼二 《(足場を組んだニコライ教会堂)》 明治 22（1888）年　ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館
3-4）ミヒャエル・モーザー《東京、浅草》明治初（1868-76）年頃　鶏卵紙　日本大学藝術学部
3-5）玉村康三郎・騎兵衛《東京、上野》 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　東京都写真美術館

関東各地の写真家たち

【東　京】鵜飼 玉川（うかい・ぎょくせん）…日本人初の写真家として知られる。
【神奈川】オーリン・フリーマン…日本初の商業写真家。
下岡 蓮杖（しもおか・れんじょう）…長崎の上野彦馬とならび日本の写真開祖の一人。多くの弟子を輩出。
フェリーチェ・ベアト…日本の名勝と風俗を欧米に紹介。
【埼　玉】吉原 秀雄（よしはら・ひでお）…小川一真の師匠。
【千　葉】豊田 尚一（とよだ・なおかず）…千葉市本町でスタジオを開業し主に肖像を撮影。
【群　馬】小川 一真（おがわ・かずまさ）…富岡製糸場の前で開業。写真印刷で成功し、日本の風俗や物語の写真集を輸出。東京駅開業にむけて鉄道院（のちの日本国有鉄道、現JR）が制作したアルバムを撮影。
【栃　木】片岡 如松（かたおか・ときまつ）…横山松三郎の弟子。横山が肖像を撮っている。
【茨　城】宇佐美 竹城（うさみ・ちくじょう）…下岡蓮杖の孫弟子とされる

展覧会構成

第一章　初期写真抄史（39 点）
第二章　関東の写真家（38 点）
第三章　初期写真に見る関東（113 点）

出品点数（予定）

計 190 点

3-6）宮内幸太郎《第二回全国写真師大会記念撮影》
明治 44（1911）年　コロタイプ印刷　東京都写真美術館

主な技法解説

ダゲレオタイプ　Daguerreotype

最も早く公表された写真術。銀メッキされた銅板の上に画像を形成します。フランス人のダゲール（Louis Jacques Mandé Daguerre 1787-1851）が考案し、1839 年 1 月に発表しました。この年が写真発明の年とされています。感光面をレンズ側から鑑賞するため左右逆となる画像は解像度が高く、美しく鮮明なもので、見る角度によってポジにもネガにも見えます。肖像写真に多く用いられ、大流行した写真術です。

カロタイプ　Calotype and Salted paper

最も早く公表されたネガ・ポジ方式の写真術。英国のタルボット（William Henry Fox Talbot 1800-77）が考案した、紙を支持体とした感光材料による撮影技法。
ギリシャ語のカロス "美しい"から命名された方式で、タルボタイプとも呼ばれます。ネガ原板の紙の繊維により、ダゲレオタイプに比べると鮮明さを欠きますが、建造物や遺跡、風景などの記録だけでなく、肖像写真にも多用されました。また単一の原板から多数の印画が作れるという利点をもちます。

コロディオン湿板方式　Wet collodion process

1847 年の卵白湿板方式に続いて公表されたガラス板を支持体とする実用的な撮影技法。一度の撮影で一枚しかできないダゲレオタイプと、紙の繊維のため鮮明さを欠くカロタイプ、それぞれの短所を改良すべく考案されました。
日本における実用的な意味での写真の技術は、この湿板写真から始まりました。鵜飼玉川や上野彦馬、下岡蓮杖らが開国後に来日した外国人から湿板写真を学び、文久年間（年頃）に最初の職業写真家として開業しました。

アンブロタイプ　Ambrotype

コロディオン湿板方式が発表されて間もなく、画像を薄く仕上げた湿板ガラスネガの背後に黒い布や紙を置いたり、裏に黒いニスを塗るなどして画像をポジ像に見せる技法が考案されました。この写真は、欧米ではダゲレオタイプの廉価版として普及し、ダゲレオタイプと同様なケースで装丁されました。日本では桐箱に入れて顧客に手渡され、「ガラス写し」あるいは「ガラス生撮写真」などと通称されました。

ゼラチン乾板　Gelatin dry plate

ガラス板に薬品を塗り、濡れたまま撮影しなくてはならないコロディオン湿板方式に対し、乾いた状態で使用できるガラス支持体の感光材料を乾板（かんぱん）と呼びます。これにより写真家は撮影の現場での暗室作業から開放され、感光板を自製する必要がなくなりました。
日本には 明治 16(1883)年頃に最初のスワン乾板が輸入されたといわれています。

鶏卵紙　Albumen paper

1850 年に発表された、卵白を感光物質の媒体として使用する印画紙。幕末から明治時代中期にかけて、日本においても中心的に用いられた印画紙。印画紙をネガと密着して太陽光で焼き付けるだけで画像が生じる、焼出し紙です。コロディオン湿板方式が発表されると、このガラスネガと鶏卵紙の組み合わせが 19 世紀後半の約 30 年の間、標準的な写真術として普及しました。この一方で、湿度や光の影響による画像濃度の低下や卵白層の黄変は、19 世紀の鶏卵紙写真の特徴でもあります。

ゼラチン・シルバー・プリント
Gelatin silver print

鶏卵紙の後に広く使われた塩化銀ゼラチン乳剤による焼出し印画紙（Printing out paper, P.O.P.）もゼラチン・シルバー・プリントの一種ですが、銀ゼラチン乳剤を使用し、露光後に現像処理を行って画像を生じさせる近代的な印画紙（Developing out paper, D.O.P.）を指して用いられることが多いのが特徴です。日本での使用例は日露戦争頃から始まったと考えられています。

鶏卵紙に手彩色　Hand-colored albumen print

鶏卵紙による紙焼き写真に手で彩色を施したもの。明治期の日本の写真を特徴付ける、いわゆる横浜写真では、一見カラー写真に見まがうような繊細な色付けが画面全体に施されたものも多くあります。
横浜写真は、幕末から明治初年にかけ下岡蓮杖やベアトが創始し、明治 20 年代から 30 年代半ばにかけて全盛期を迎える外国人向けのお土産写真でした。名所旧跡や風俗などが対象として撮影され、鶏卵紙に焼き付けられた写真は、そのほとんどに手彩色が施されていました。日本画の絵師が雇われて彩色の作業をしたといわれ、膨大な数の写真が横浜を中心として生産されました。

コロタイプ　Collotype

写真印刷法の一種であるコロタイプの原型は、1855 年に考案された写真石版法フォトリソグラフィー（Photolithographie）です。1870 年にイギリスのオートタイプ社がこれをコロタイプとして発表しました。この印刷技法は写真の再現に優れており、発表後から急速に普及し、ウッドベリタイプなどの複製技術に置き換わっていきました。比較的少部数の写真印刷などに適しているところから、日本でも卒業アルバムなどの印刷に多用され 1960 年代まで広く使われました。

（展覧会図録より一部抜粋）

関連企画

「日本初期写真史 関東編クイズ」

本展では「日本初期写真史 関東編クイズ」と題し、本展にまつわる〇×クイズに回答いただき、
全問正解をされた方には、展覧会特製ポストカードを進呈いたします。（先着 10,000 名様）
本展のご鑑賞とともに、日本初期写真史をより深く味わうことができるクイズをお楽しみください。
例：「世界で初めて写真術が公開されたのは、1839 年である。」（ヒントは 1 章に！）

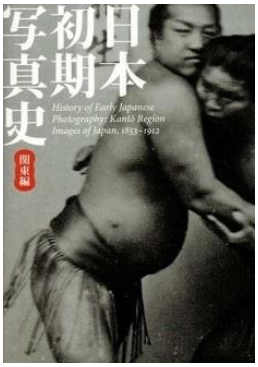
展覧会動画

本展担当の三井学芸員によるオンラインギャラリートーク（全 7 本）を公式ホームページで公開しています。

#01 #02 #03 #04

#05 #06 #07

展覧会図録



『日本初期写真史　関東編　幕末明治を撮る』価格 1,980 円（税込）

2020 年 3 月発行、東京都写真美術館刊。全 192 頁。
出品作品図版、作品技法等のほか、高橋則英（本展監修者・日本大学藝術学部写真学科教授）、井桜直美(日本カメラ博物館研究員)、三井圭司(担当学芸員)によるテキストを掲載。
ミュージアム・ショップまたはオンラインショップで発売中。
NADiff BAITEN　TEL.03-6447-7684

事業はやむを得ない事情で変更することがございます。最新情報はホームページでお知らせいたします。

開催概要

展覧会名[和]　日本初期写真史 関東編　幕末明治を撮る

展覧会名[英]　History of Early Japanese Photography: Kantō Region Images of Japan, 1853-1912

会　期　　2020 年 12 月 1 日（火）―2021 年 1 月 24 日（日）

主　催　　東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協　賛　　ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

会　場　　東京都写真美術館 3 階展示室
〒153-0062　東京都目黒区三田 1-13-3　恵比寿ガーデンプレイス内
www.topmuseum.jp / 電話 03-3280-0099

開館時間　10:00―18:00 ※入館は閉館の 30 分前まで

休館日　　毎週月曜日（ただし月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12 月 29 日から 1 月 1 日）

観覧料　　一般 700（560）円、学生 560（440）円、中高生・65 歳以上 350（280）円

※（　）は 20 名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、各種カード会員割引／ 小学生以下、都内在住の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。

※1 月 2 日（土）と 3 日（日）は無料／1 月 21 日（木）は開館記念日のため無料。※各種割引の併用はできません。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は広報担当までご連絡下さい。

＊図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

＊図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062　東京都目黒区三田 1-13-3　恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku, Tokyo, 153-0062
Tel　03-3280-0034　Fax 03-3280-0033　www.topmuseum.jp

展覧会担当　三井圭司　k.mitsui@topmuseum.jp／伊藤貴弘　t.ito@topmuseum.jp
広報担当　　平澤 綾乃／池田良子／岡田なつき　press-info@topmuseum.jp